

地域福祉保健計画「十日市場団地地区意見交換会」
で皆様から出された意見を
まとめてみました。
どうぞお読み下さい。



地域福祉保健計画地区別意見交換会ってなあに？

緑区地域福祉保健計画を作成するため、地域のいろんな人たちが集まり、自分たちの住んでいる地域の現状や困っていること、不安に思っていることなどについて意見を出し合い、そこから出てきた課題に対して自分たちでどんなことができるかを話し合いました。(緑区では11地区で実施)

いつ、どこで、何人が参加して実施したの？

十日市場団地地区では次の日程で実施しました。

1回目；平成16年10月16日(土) 午前10時～12時

49名参加


2回目；平成16年11月6日(土) 午前10時～12時

43名参加

場所は、いずれも「十日市場団地7街区集会所」

参加者が考えた地域福祉保健計画の十日市場団地地区
キャッチフレーズ(将来像)です。

いきいきとした福祉の輪を広げよう！助け合いのまち十日市場団地
明るいあいさつで仲間をつくろう十日市場団地
あいさつから始まる世代交流。声かけしようヒルタウン。
一声運動から始まる支えあいヒルタウン
みんな仲良くヒルタウン
あいさつは友を呼ぶ 声かけて手をさしのべる明るい十日市場団地

 が付いているアイデアは自治会を中心に、住民個々が努力することで改善が望めるものです。明日からでもできることです。みんなでやっていきましょう！

地域のつながりを強くするためのアイデアができました



困っていること

新しく入居してきた人と接点がない。

近所とのつきあいがなく、地域でのふれあいがなくなった。










公団住宅には、自治会、子ども会、老人会がなく、市営住宅との接点がない。地域の状況がわからない。

高齢者等の要援護者は、ごみの分別が困難。

団地内に商店がないので、高齢者や乳幼児のいる家庭が困っている。



こんなアイデアが出ました














1. 団地中央、各街区に高齢者から子どもまで誰でも集える場所を確保する。
2. 簡単なふれあいの場が必要。プレハブ程度のお茶のみの場所を作る
ふれあいで仲間をつくる。
3. 目的施設の建設。
4. 隣のコミュニケーションが必要。月一回の掃除には参加する 
5. しい入居者や高齢者等の近所の人に声かけをする。 
6. 回覧板や自治会費は手渡しにする。
7. 旧住民と新住民がマッチしていけるようになると良い。 
8. 入居歓迎会をする。自治会単位、班単位でつながりを密にする。 
9. 四季折々の祭りをみんなで作り上げる。 
10. 行事がある時は、新住民を諦めないで何度も誘う。 
11. 世代間交流を行う。子ども会・老人会単位の活動をうまく軌道に乗せる。 
12. ごみの出し方について、PR方法の徹底。具体的には自治会役員会できめ細かく会員全員にお願いする。ごみの分別の仕方について分かりやすく大きく書いたものを配る。  & 行政
13. 過剰包装を控え、買い物には「マイバッグ」をもつようにする。 
14. 生活上の必需品の販売所が団地内にあると要援護者が助かる。

高齢者の孤立化を防止し、高齢者が住みやすい環境をつくるためのアイデアが出ました

困っていること

ひとり暮らしの高齢者や、援助が必要な高齢者の把握が難しい。
引きこもりの高齢者がいる。
老人会の加入者が少ない。老人会のあり方はこれでいいのか？

こんなアイデアが出ました



1. 隣近所の声かけが大事。自治会が緊急時に手助けをする。 
2. 高齢者の援助体制のために居住者の名簿を作成する。
3. 各班で高齢者の無事かどうかを点検する。月・週ごとにリストを作ってチェックする。
4. 相手の身になって考える。 
5. 顔見知りを増やす。元気なうちから親しい人をつくる。
友が友を呼ぶ。 
6. 得意分野をお互いに教えあう（相互に講師になる）。 
7. 自治会、棟長、民生委員が一緒になって訪問する。 
8. 高齢者独居世帯の連絡網を作成する方法を話し合う。
9. 安否確認の活動の情報交換が上手に行える方法を話し合う。
10. 各団体役員との連携が欲しい。少なくとも3団体くらいは欲しい 
11. 棟ごとの交流を作る。棟長同士の交流があると良い。 
12. シニアリブインは、相談室があるので利用したい。 
13. 行事がある時に高齢者の方に声をかけ合って誘い出す。 
14. 高齢者でも参加できる行事を増やす。 
15. 自治会単位で高齢者援助体制をつくる。 
16. 高齢者の知恵や人材を活用して、「活動の場所」をつくる。もっと、高齢者のもっている力を生かそう。
17. ケアプラザやほのぼの荘をもっと活用し、閉じこもりの人が利用したくなる場所にする。
18. 老人会のイメージを変える。名称を変える。 
19. 老人会の活動をアピールする（ポスター、回覧、人から人へ） 
20. 65歳～70歳代の人に入会してもらえよう勧誘する。

災害に備えてのアイデアが出ました

困っていること

団地は人口が多いので綿密な災害対策が必要だと思うが・・・
防災訓練の回数が少ないので、避難具の使い方を覚えられない。

こんなアイデアが出ました




1. 災害時に備えて、今以上に避難場所(中学校)のトイレの整備を進めておく必要がある。公園にトイレ用の穴を作り利用する。また、トイレ用水の貯水も対策として考える必要がある。
2. 各自治会単位で避難訓練を年に3回くらい実施する。災害に対する意識を高めていく。
3. 高齢者の災害対策については、班単位で高齢者の状況を確認し棟長がまとめ、自治会全体でまとめていく。班長さん同士の引継をきちんと実施し、途切れないようにすることが必要。

地域の中で、子育てや青少年の健全な育成をしていくためのアイデアがでました

困っていること

子どもたちが安心して遊べる場所が少ない。
核家族化で子育ての相談をする相手が不足している。

こんなアイデアが出ました

1. 子育てに地域全体が関心を持つ。
2. 地域で子どもとふれあえる場を多く作り、子どもたちの顔を知ってもらい、声かけしてもらう。
3. 大人から子どもにあいさつのかける。
4. 連合自治会、各自治会が、子ども会の協力を得て子どもを対象にした事業を行う。
5. 青年が有志でパトロールする。
6. 早い時間には子どもと一緒に見回りをする。
7. 街灯の明かりをもっと明るくする